

書 評

『看護研究のための文献検索ガイド 第4版』

山崎茂明、六本木淑恵／著

東京 日本看護協会出版会

2005年7月1日発行

B5版 210p 定価 2,200円



「文献とは何か」から「論文投稿」にいたるまで幅広く、しかもコンパクトにまとめた本書は、「看護研究のための文献検索ガイド」というタイトル以上の内容を含んでいます。看護に関する情報を、日本の、または世界の看護関係雑誌や、インターネット上の情報、二次資料の種類別など、さまざまな角度で照らし合わせて丁寧に紹介しており、序文で紹介されている通り看護情報学のテキストとしてもふさわしい1冊です。また文献調査の進め方、論文のまとめ方、統一投稿規定、発表倫理までまとめてあり、研究結果をあらゆる口頭発表、論文投稿の際にも大いに役立つと思います。

本書は19章を4つのパート（入門編、基礎編、応用編、活用編）にまとめてあり、はじめからじっくり読み進めれば司書はもちろんのこと、看護研究を始めようと思った（始めなくてはならなくなった？）看護師が、看護研究を身近に感じることができると思います。もちろん必要な部分だけを読むように整った目次もついており、ベテラン看護師にも役立つ1冊だと思います。

昨年から当院看護師の研修コースと、併設する看護学校授業のそれぞれの看護研究の講習・授業のなかで、主に医学中央雑誌 Web 版を使った文献検索実習を手伝うことになり、大慌てで特集記事の必要ところだけ読んだのみで臨み、質問されても即答できなかったことがありました。その後に行われた看護師の研修コースでも、非番や日勤後の看護師100名弱にスライドを使って検索の手順を説明するのみでは、とうてい惹きつける内容にならなかったことを反省点として残しています。

この本は私が持っていた中途半端な知識や疑問に答えてくれました。自身の不勉強を恥じつつ申し上げますが、看護関係の文献が少ない理由、教科書とはどのような書籍のことなのか、構造化抄録とは、レビュー論文とは、二重投稿はなぜいけないのか、などおぼろげに聞き知るのみだったのです。次回は12月に看護師の研修コースがあります。本書を読んで、今度こそはと気合を入れています。

ところで以前、当会事務局長を務める林氏に図書館勤務で大事にしていることを尋ねたところ「忙しい合間をぬって図書館に来た人を手ぶらで帰さないこと」と聞き、以来私の図書室勤務での座右の銘にしています。さらに今回本書を読んで、「看護研究のための文献」だけではなく、日常業務の中にこそ文献が必要であると知ってもらい、さらに「しなければいけない研究」ではなく「したくなる研究」を各自が持てるようになる「そのお手伝いができるようになること」を2つ目の座右の銘に据えました。

この書評を書きながら、本当はもっとすばらしい書籍なのにと自身の力量のなさに恥じつつ、ひょっとして私と似たような疑問や不安を抱えて勤務している方のお役に立てればと思ひ書きました。最後になりましたが、著者の1人であった山添美代氏は今回の改訂に監修者として参加されましたが、刊行をまたずに逝去された由、序文で紹介されていました。末筆ではありますが山添氏のご冥福をお祈りいたします。

(文責：寺澤 裕子／関西労災病院図書室)